

令和元年度 第5回三郷区地域協議会

次 第

日時：令和元年10月17日(木)午後6時30分～

会場：三郷地区公民館 集会室

1 開 会

2 議題等の確認

3 報告

(1) 公の施設の使用料改定について

(2) 今後の「公の施設の再配置計画」の取組について

4 議題

(1) 令和元年度地域活動支援事業（三次募集の審査・採択）

(2) 自主的審議事項「三郷区の人口減少について」

(3) 自主的審議事項「三郷区における高齢者支援の取組について」

5 事務連絡

6 閉 会

1 使用料改定の背景・目的

- ・公の施設は、行政サービスの一環であり、公費と施設を利用する皆さんからの使用料によって、施設の維持管理を行っています。
- ・施設の老朽化や利用者数の減少等の環境変化を反映させる必要があるとともに、本年10月から消費税率が引き上げられました。
- ・このような背景を踏まえ、利用者負担の適正化を図るため、使用料の改定を行います。

2 使用料算定の考え方

- ・施設の区分に応じて考え方をまとめ、維持管理費の二分の一を負担していただくことを基本に使用料を算定しています。
- ・使用料の増額改定に伴い、施設を利用する皆さんの急激な負担増や、増額に伴う利用控えの影響を少なくするため、増額の幅が最大でも1.2倍程度となるよう調整しています。

現行使用料（単価）	調整率
1,000円以下の施設	現行使用料の1.2倍
1,000円を超える施設	現行使用料の1.1倍

- ・算定の考え方等

基準	算定の考え方	施設の区分	算定例
A	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理費の状況を踏まえた利用者負担となるよう算定しています。 ・現行使用料に調整率を乗じた額としています。 	貸館施設 体育施設	市民プラザ 会議室 1時間当たり 現行使用料 700円 $700円 \times 1.2倍 = 840円$
B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の集会施設などについては、どの地域でも同程度の単価となるよう算定しています。 ・部屋の機能に応じ、1㎡当たりの平均単価に各部屋の面積を乗じた額と、現行使用料を比較し、算定しています。 	地域の集会施設	高士地区公民館 調理室 1時間当たり 現行使用料 160円 1㎡の当たりの平均単価 $4円 \times 45㎡ = 180円$
C	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税率の改定に対応して、税の引上げ相当分を加算するなどして、算定しています。 	既に適正な利用者負担がなされている施設等	総合体育館 1時間当たり 現行使用料 1,500円 $1,500円 + 2\% (27円) = 1,530円$

3 改定使用料案

- ・改定する使用料は、現行使用料に対して消費税率引き上げ相当分(約2%)から最大でも1.2倍程度の引き上げを行います。
- ・詳細は別紙「改定使用料案の新旧対照表」を参照してください。

4 改定予定時期

- ・市議会12月定例会に関係条例の改正案を提案し、議会での議決を前提として、令和2年4月1日以降の利用から改定後の使用料の額を適用します。

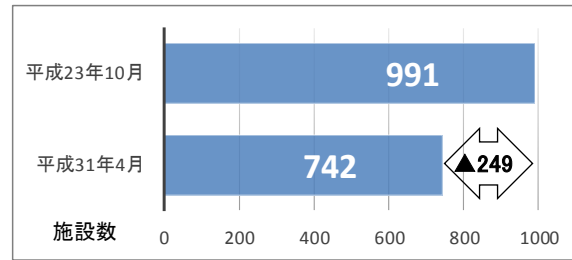
改定使用料案の新旧対照表(三郷区)

施設名	区分	算定基準	単位	現行使用料 (税込・①)	改定額案 (税込・②)	差額 (②-①)	倍率 (②/①)
三郷地区公民館	和室	B	1時間	120	130	10	1.08
	集会室		1時間	260	310	50	1.19
	調理実習室		1時間	100	110	10	1.10

公の施設の再配置の取組状況と現状と課題について

1 これまでの取組状況

市町村合併後、公の施設の廃止や譲渡を進め、平成23年10月時点で991施設あった公の施設は、平成31年4月1日現在、742施設となっています。



2 現状と課題

現状

○人口推計

合併当時21万人であった人口は、減少傾向が続いており、令和27年には、推計で約14万人となる見込み。(H31.4.1現在の人口：192,068人)

○財源不足

市の財政は、歳出が歳入を上回るため、財源不足を基金の取崩しで補う状況が続く見込み。(R2～R4年度で49.6億円の取崩しを予定しており、また、R5以降においても収支均衡を図る目途がたっていない。)

○公の施設の状況

- 多くの施設の老朽化に伴う、維持管理経費と更新費用増加の見込み。(今後40年間の維持・更新費用試算額：約4,325億円)
- 合併前の各市町村で進めた施設整備により多くの類似施設を保有している。(温浴施設、体育館など)

課題

- 人口減少
- 施設機能の重複する配置
- 施設更新、維持管理に係る財政負担の抑制
- 施設機能の適正な維持
*老朽化する施設に対する計画的な修繕の実施、機能を維持するための複合化(機能集約)

公の施設の再配置計画(個別施設計画)について

1 公の施設の再配置の必要性

将来予測される人口減少や収支不足の市の財政状況等を踏まえ、今後、施設の老朽化がますます進行し、大規模修繕や更新が見込まれる中、多くの施設を現状のまま維持していくことは困難な状況です。

このような状況の下、今を生きる私たちは、地域の皆さんと共に、子どもや孫など次代を担う世代が今後も安心して暮らすことができる将来を見据え、教育や福祉を始めとした市民生活を支える基礎的なサービスを安定的に提供していくためにも、施設の廃止や機能の集約を行う必要があります。

また、継続すべき施設については、末永く利用していただくため、適切に維持・管理し、長寿命化を図ることとしています。

2 基本事項

- 計画期間：令和3年度～令和12年度の10年間とし、令和7年度に見直しを行います。

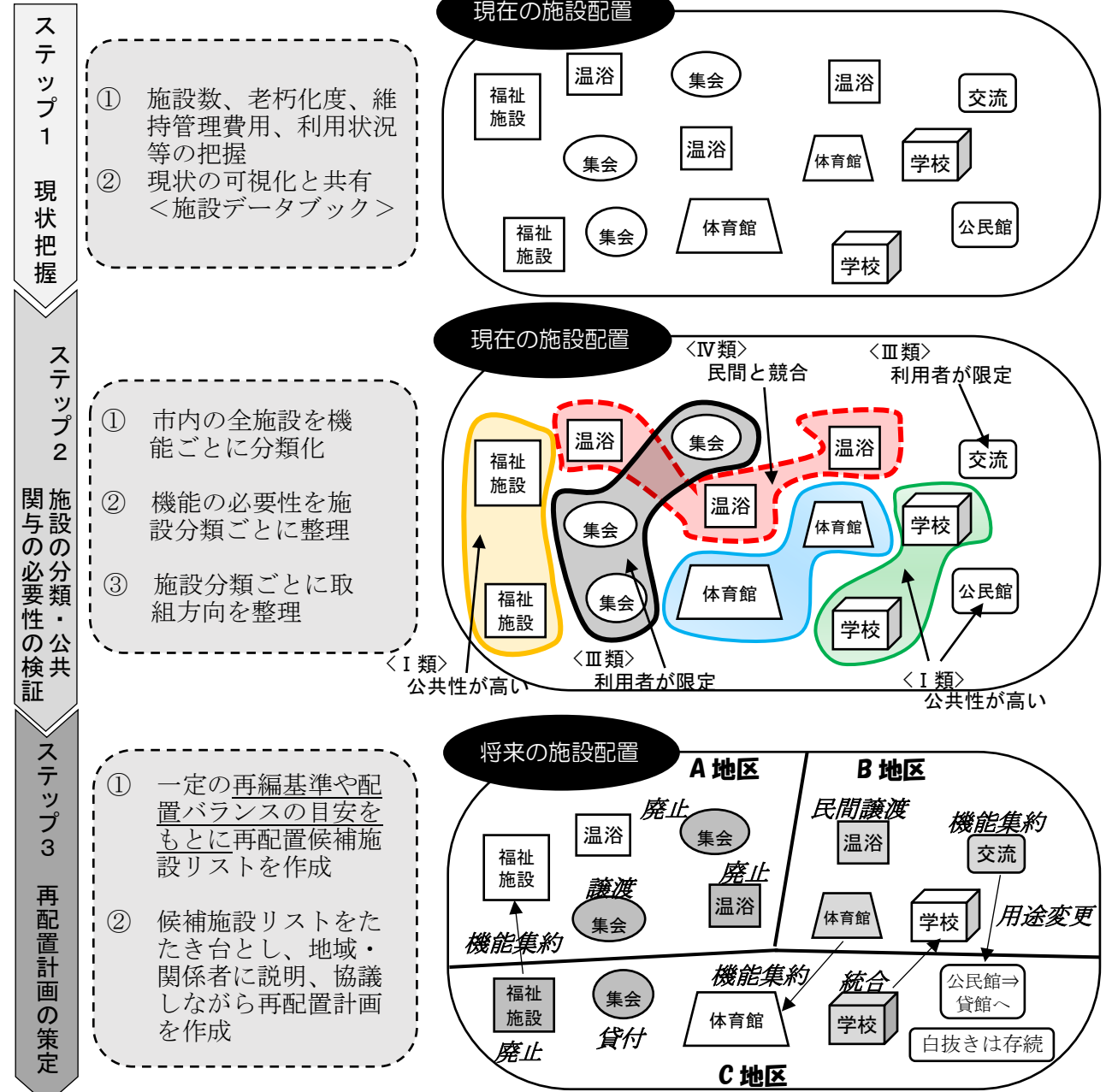
令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
全体の計画期間(令和3年度から令和12年度)									
前期(令和3年度から令和7年度)					後期(令和8年度から令和12年度)				

見直し

3 今後の取組の方針

取組方針	具体的な取組
①人口や財政状況を踏まえ施設の配置を検討	廃止(休止) 用途の変更
②地域の実情を踏まえ施設の配置を検討	機能の集約
③利用状況を踏まえ適切な管理者によるサービス提供を検討	民間譲渡 貸付又は譲渡
④長期にわたり利用促進を図るため計画的な修繕等について検討	施設の長寿命化

4 今後の取組のイメージ



将来的な施設の配置について

今後、人口減少等による利用状況の変化などに対応するため、これまで地域自治区ごとに配置している施設を、複数の地域自治区で供用すること、また、複数の異なる機能の施設を集約することで維持管理費用の削減を図ることが必要と考えています。

■施設一覧

【07三郷】

通番	施設名	カテゴリー	建築 (設置) 年度	利用者数 (H26~28の 3か年平均) (人)	公費負担額 (H26~28の 3か年平均) (千円)
1	三郷保育園	保育園	S55	-	60,944
2	六合公園	農村公園	S56	-	156
3	三郷地区公民館	公民館	S55	2,765	1,824

※農業集落排水処理施設を除く。

人口・世帯に関する基礎データ集
(三郷区)

平成29年4月改訂
上越市創造行政研究所

■ はじめに（データの定義・出所について）

このデータ集は、各地域自治区における人口・世帯数の概要をご紹介します。過去から現在までの変化や、上越市全体あるいは他の区との比較などを通じて、地域課題や今後の目標・方向性などを考えるための参考資料としてご活用ください。

なお、データの詳細な分析や二次利用などされる場合には、下記に示したデータの定義や出所にご留意ください。

- データの出所は国勢調査が中心であり、補完的に住民基本台帳などを使用しました。
国勢調査のデータは5年おきのため少し古い情報になりますが、実際に住んでいる人の数がわかり、その内訳の把握や全国との比較などにも便利です。
なお、国勢調査と住民基本台帳ではそれぞれ人口の定義が異なるため、値には若干のずれがあります。
- 国勢調査のデータは、2015（平成27）年が最新値です。
ただし、住民基本台帳を用いたデータ（図7・8）は現在集計中であるため、2010年までのデータを用いて作成しました。
- 地域自治区別のデータは、町丁字（住所）単位のデータを合計したものです。
実際の地域自治区は行政区（町内会）単位で構成されているため、合併前上越市の一部の区では、実際の値と若干のずれがあります。
- 将来推計人口は、あくまでも一つの目安であり、市の公式見解ではありません。
ある仮定条件に基づき比較的簡便な方法で推計した人口であり、実際の人口は今後の諸条件の変化や取組状況によって変わりうるものです。
特に、シナリオ①は最近の傾向が続いた場合の目安であるため、今後の地域づくりにおいてはこの状態を前提と考えるのではなく、シナリオ②で示したような目標を設定して取り組まれることを期待するものです。
- 「年」の定義は、データの種類によって異なります。
国勢調査のデータは10月1日基準であるため、このデータ集における人口増減の対象期間は前年10月～当年9月としています。
統計によっては年度（当年4月～翌年3月）や暦年（1月～12月）を対象期間とするものもありますので、他のデータ集と比較される際はご注意ください。
- このデータ集を加工・編集して二次利用することは避けてください。
引用される場合は、上越市創造行政研究所の作成であることを明記してください。

人口・世帯に関する基礎データ集（三郷区）

目次

1 人口

● 区の人口はどのように変化してきたか？ 上越市全体や他の区と比較してどうか？

1 総人口の推移 三郷区・上越市（1965～2015）

2 総人口の増減率の比較 市内 28 区（1965-2015）

● 区の人口を年齢別にみるとどうか？ 上越市全体や他の区と比較してどうか？

3 年齢別人口〔3 区分〕の推移 三郷区（1985～2015）

4 年齢別人口〔3 区分〕の比較 市内 28 区（2015）

5 年齢別人口（5 歳階級別人口ピラミッド） 三郷区（2015）

2 人口増減

● どの年齢層でどのくらい人の増減があるか？

6 年齢別にみた人口増減 三郷区（2010-2015）

● どの地域とどのくらい人の増減があるか？ 他の区と比較してどうか？

7 転入・転出先別にみた人口増減 三郷区（2005-2010）

8 人口動態の比較 市内 28 区（2005-2010）

3 将来推計人口

● 区の将来人口はこのままのペースでいくとどうなるか？ 少し頑張るとどうか？

9 シナリオ① 最近の傾向が続いた場合の人口推移 三郷区（～2055）

10 シナリオ② 持続可能な定住促進が実現した場合の人口推移 三郷区（～2055）

4 世帯数

● 区の世帯数はどのように変化してきたか？ 上越市全体と比較してどうか？

11 総世帯数の推移 三郷区・上越市（1970～2015）

● 区の世帯構成はどのように変化してきたか？ 他の区と比較してどうか？

12 世帯構成の推移 三郷区（1985～2015）

13 世帯構成の比較 市内 28 区（2015）

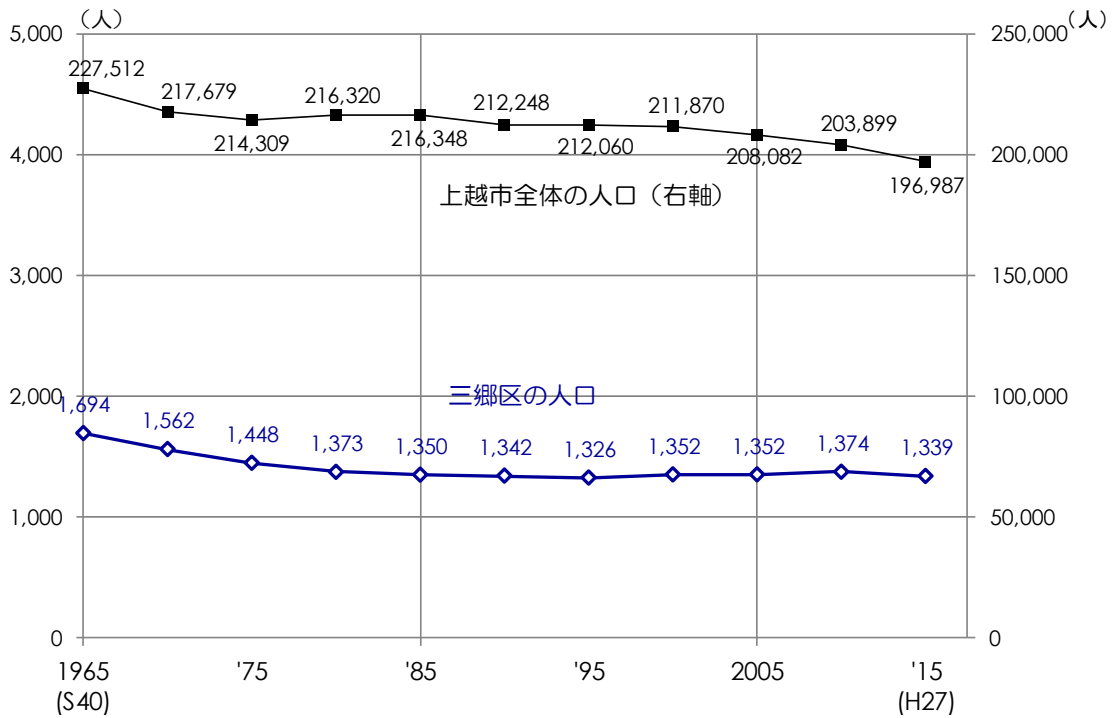
1 人口

● 区の人口はどのように変化してきたか？ 上越市全体や他の区と比較してどうか？

図1 総人口の推移

三郷区・上越市

1965～2015

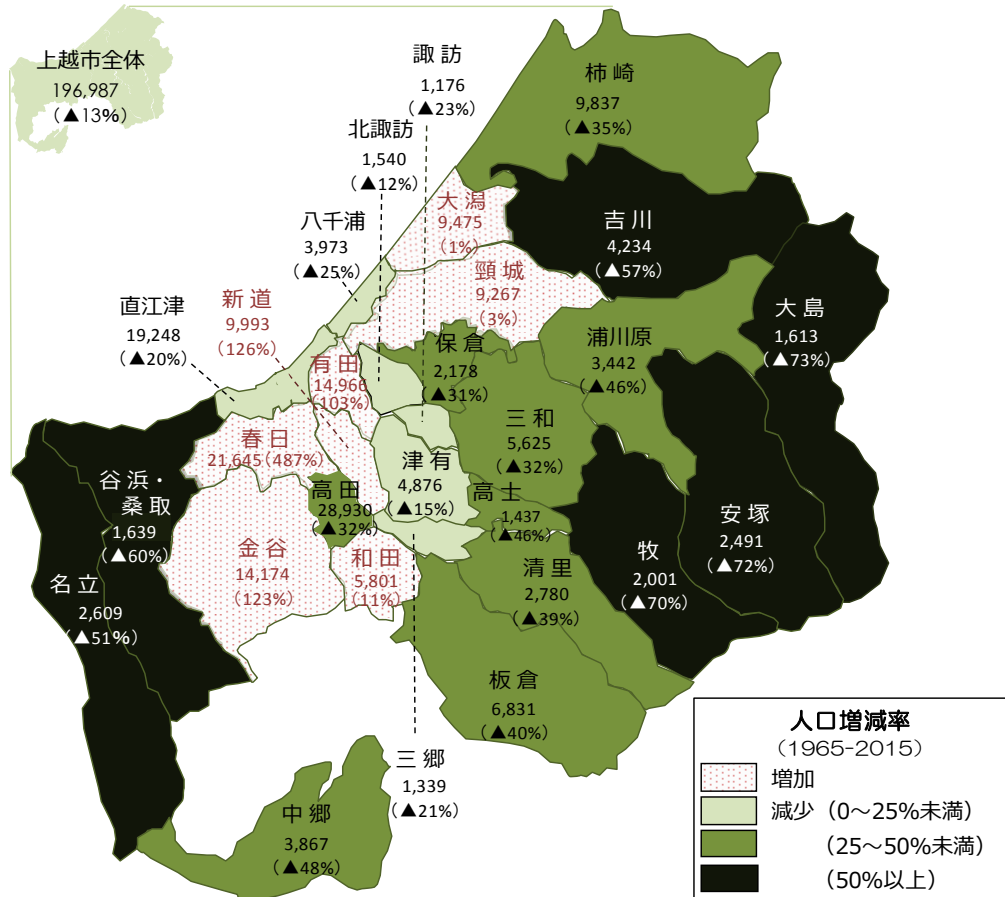


資料) 総務省「国勢調査」及び上越市資料をもとに作成

図2 総人口の増減率の比較

市内28区

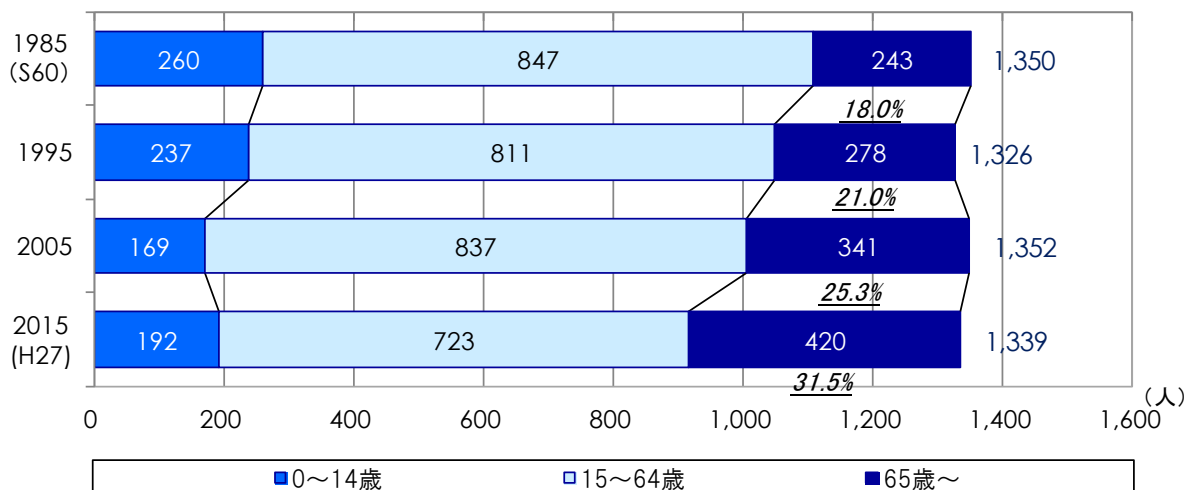
1965-2015



資料) 総務省「国勢調査」及び上越市資料をもとに作成

● 区の人口を年齢別にみるとどうか？ 上越市全体や他の区と比較してどうか？

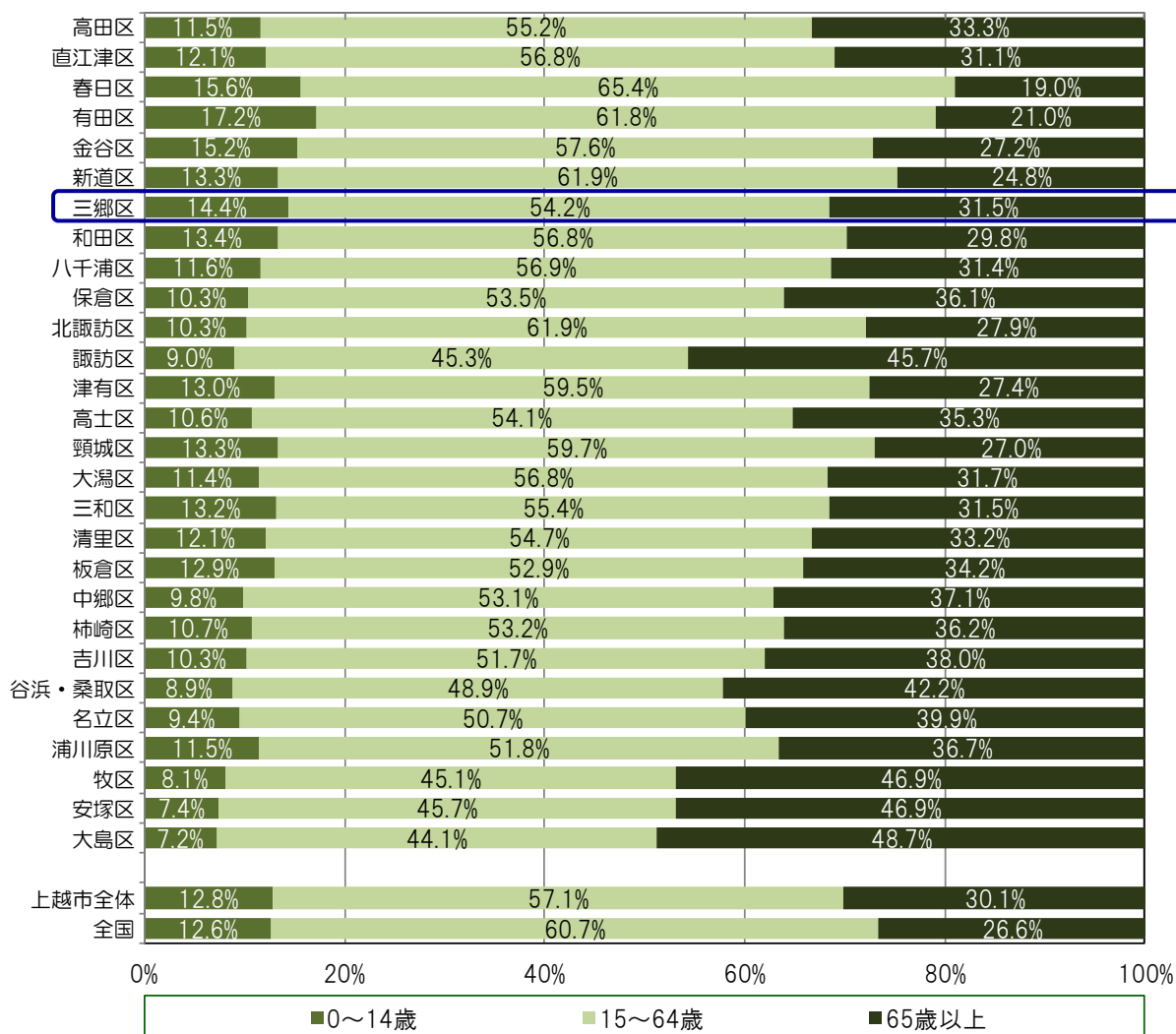
図3 年齢別人口（3区分）の推移 三郷区 1985～2015



備考) % (下線表示) は高齢化率。合計値には年齢不詳分を含む。また、集計方法の制約上、数人程度の誤差が生じる場合もある (小地域集計の秘匿計算によるもの)。

資料) 総務省「国勢調査」及び上越市資料をもとに作成

図4 年齢別人口（3区分）の比較 市内 28 区 2015



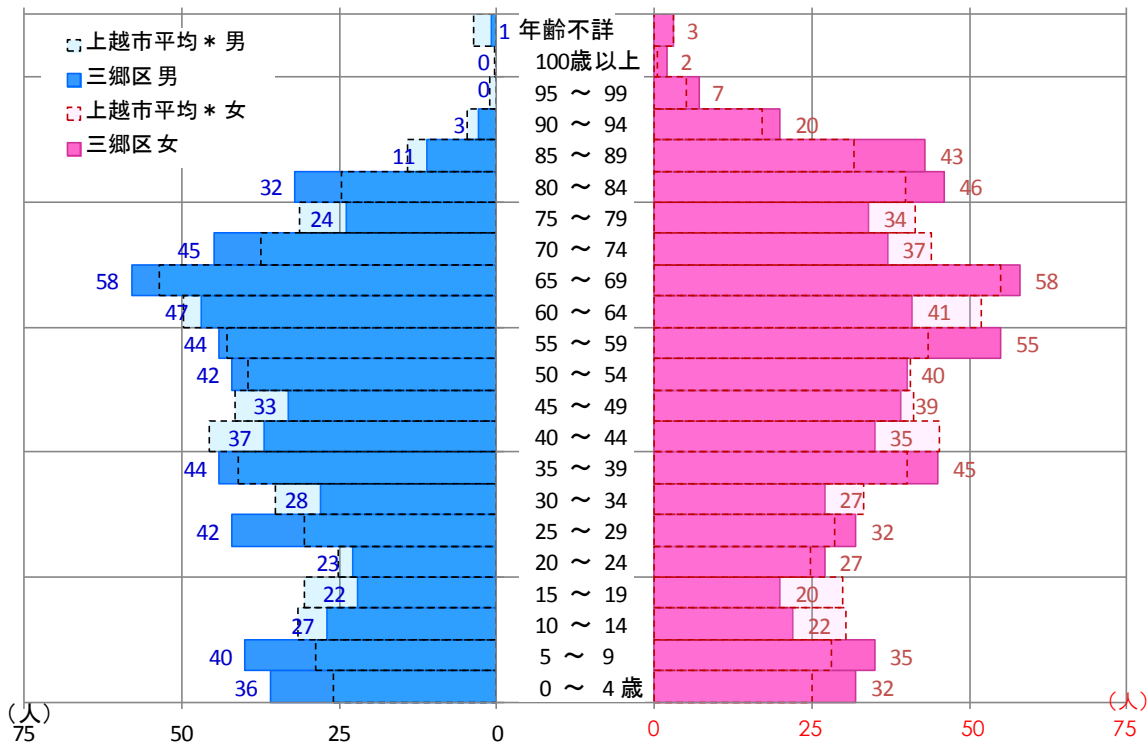
資料) 総務省「平成 27 年国勢調査」をもとに作成

図5

年齢別人口（5歳階級別人口ピラミッド）

三郷区

2015



備考) 上越市平均* は、上越市の人口ピラミッドの形を地域自治区の人口規模に合わせて重ねたもの
 (年齢別の構成比率が、上越市平均に比べて高いか低いかを見るためのもの)
 資料) 総務省「平成 27 年国勢調査」をもとに作成

2 人口増減

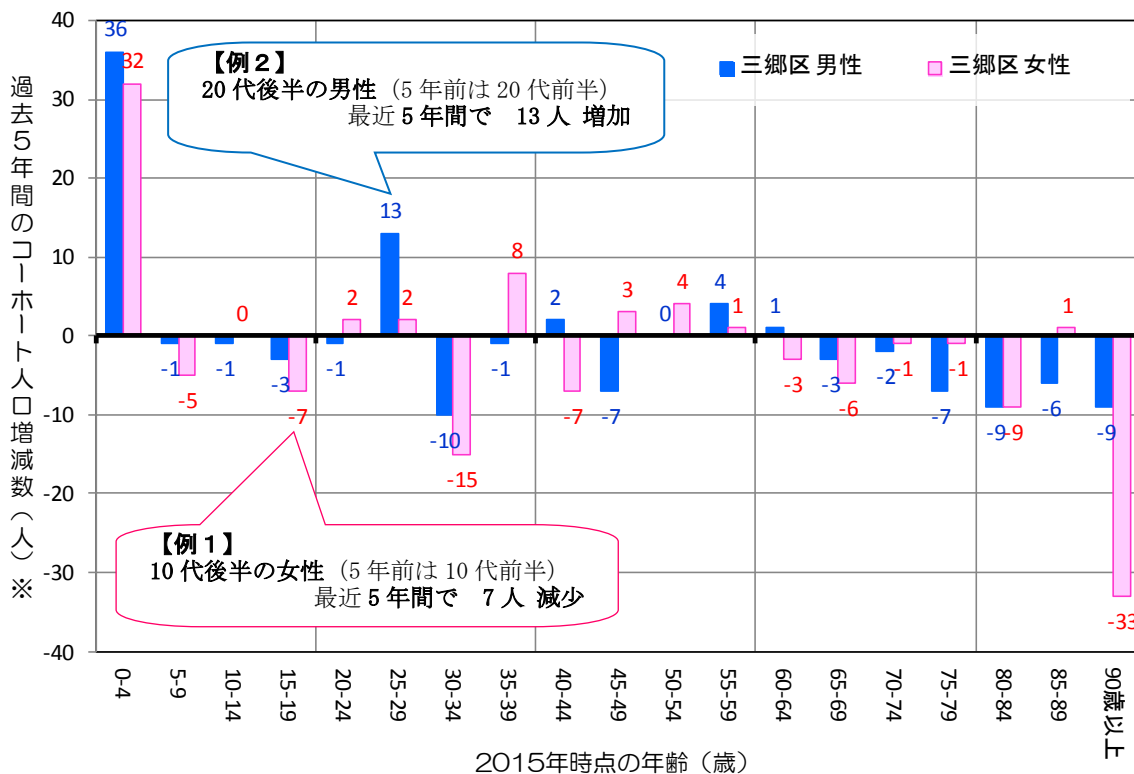
● どの年齢層でどのくらい人の増減があるか？

図6

年齢別にみた人口増減

三郷区

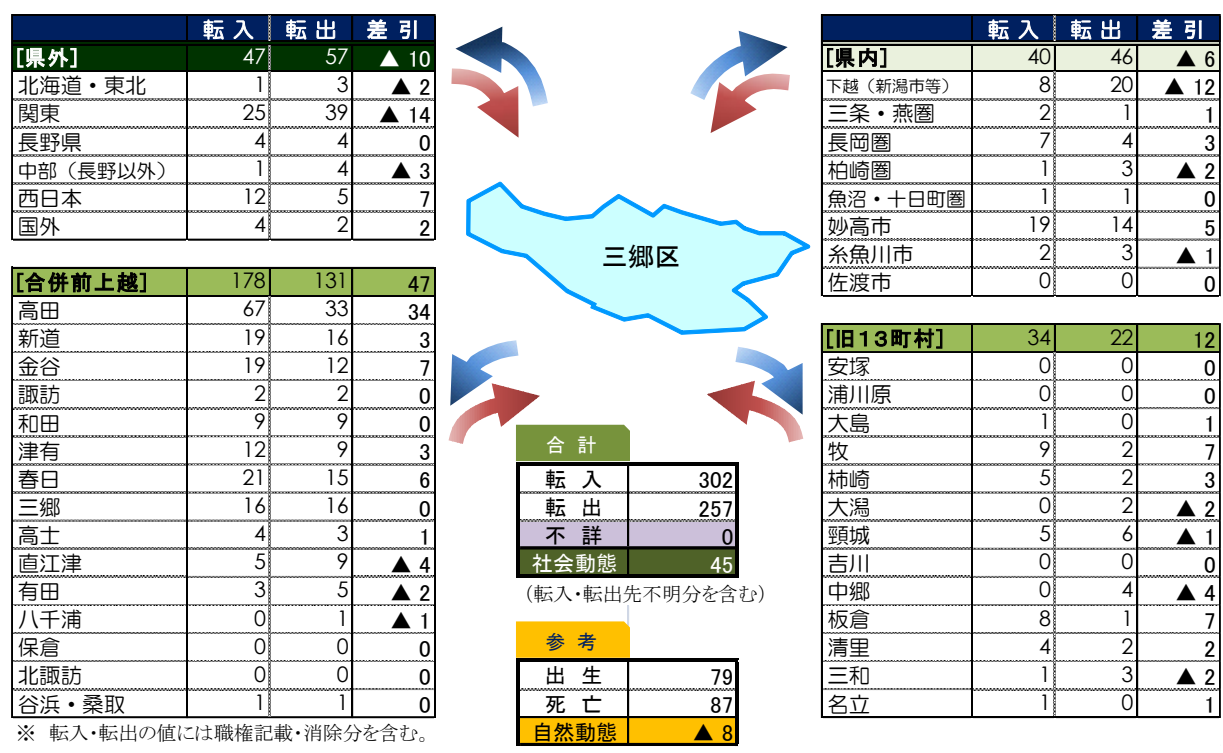
2010-2015



備考) ※は、5年前の5歳若い世代（すなわち同じ生まれ年のグループ）の人口と比較したもの。
 資料) 総務省「国勢調査」をもとに作成

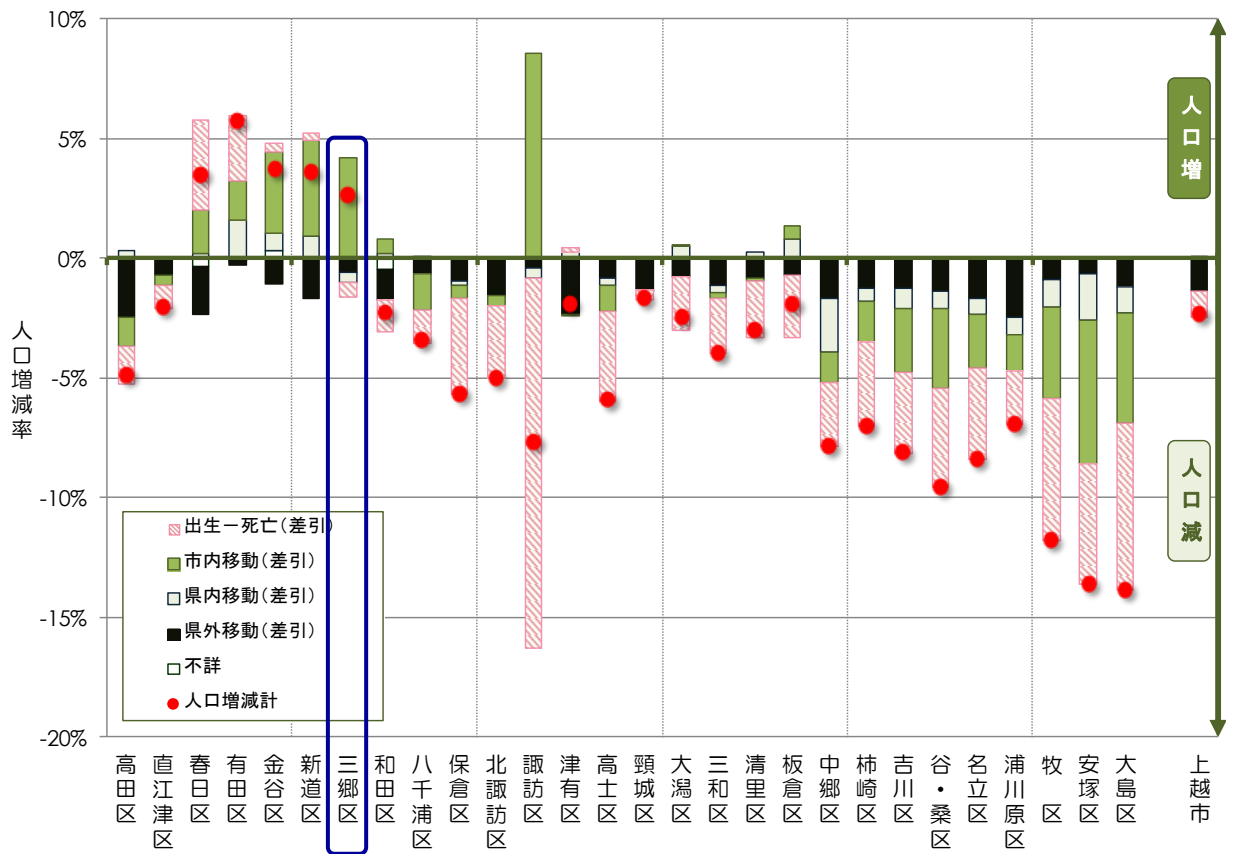
● どの地域とどのくらい人の増減があるか？ 他の区と比較してどうか？

図7 転入・転出先別にみた人口増減 三郷区 2005-2010



資料) 「新潟県人口移動調査結果報告」及び上越市住民基本台帳データをもとに作成

図8 人口増減の比較 市内28区 2005-2010



資料) 「新潟県人口移動調査結果報告」及び上越市住民基本台帳データをもとに作成

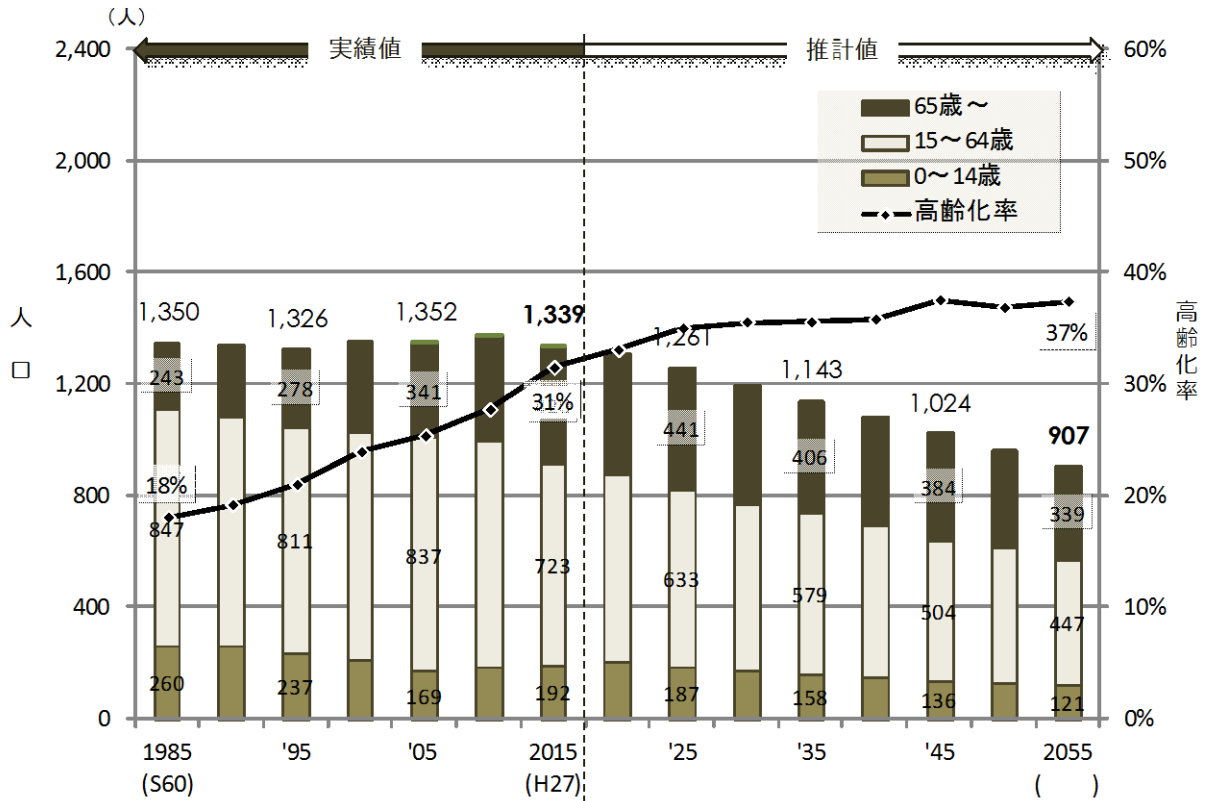
3 将来推計人口

● 区の将来人口はこのままのペースでいくとどうなるか？ 少し頑張るとどうか？

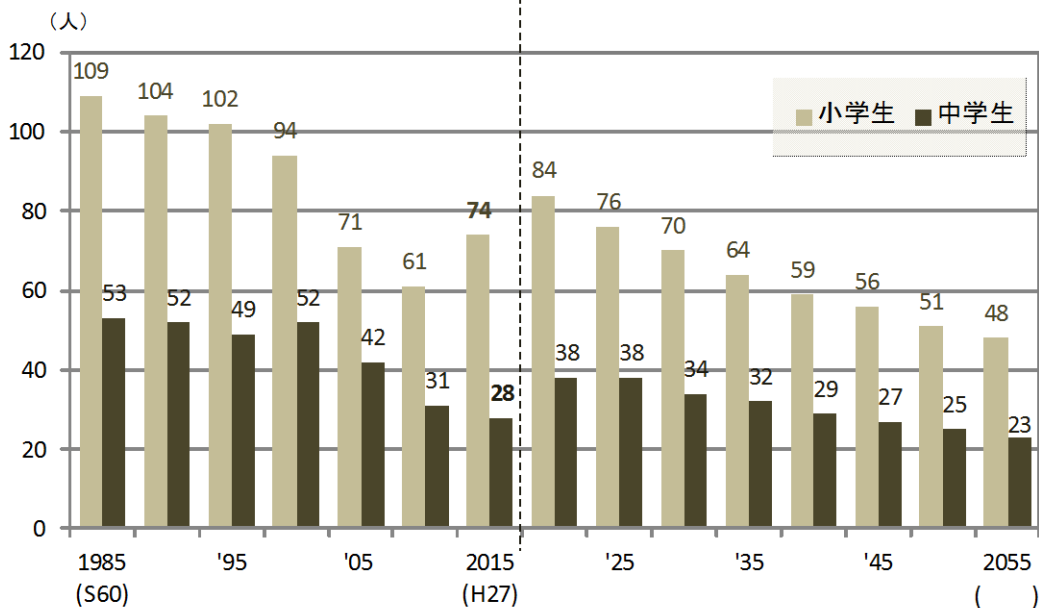
図9 シナリオ1 最近の傾向(※)が続いた場合の人口推移 三郷区 ~2055

※ 年齢別人口増減(図6)の2005~15年における割合が今後も続くものとして推計

● 年齢3区分別 (1985実績 - 2055推計)



● 小・中学生人口 ※ (1985実績 - 2055推計)



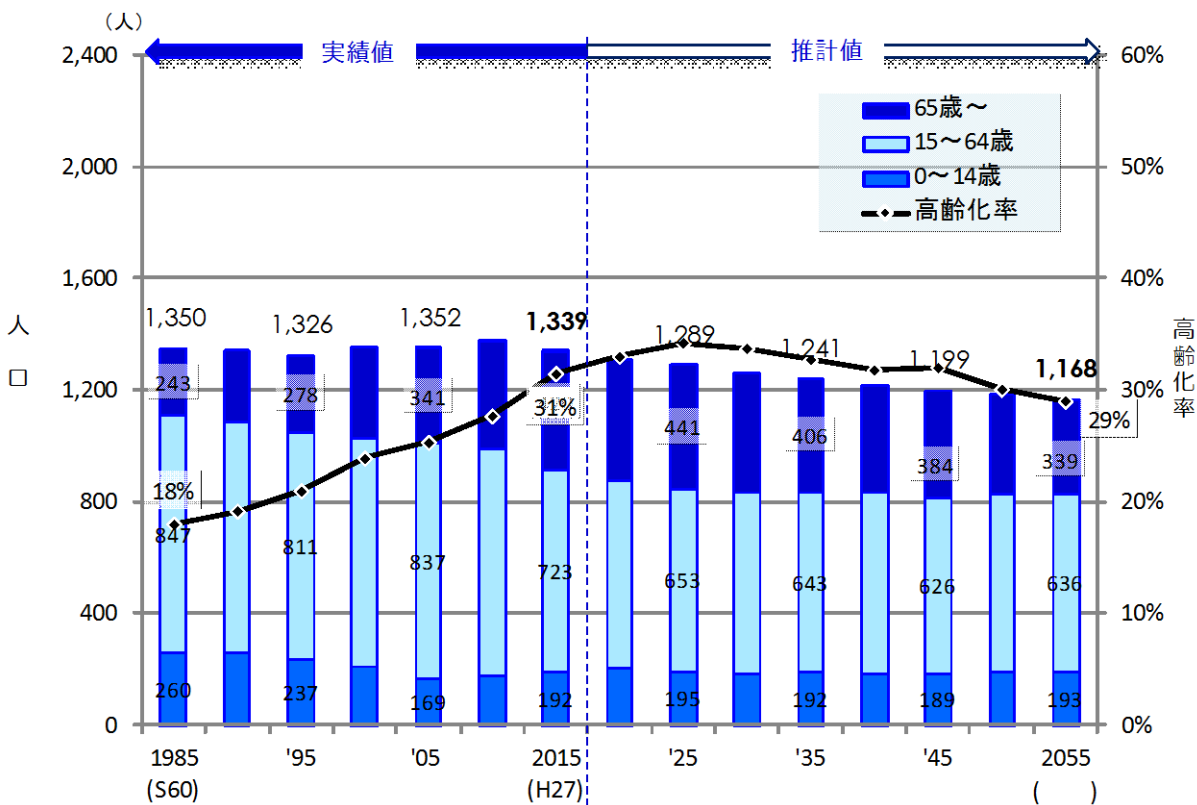
備考) ※は5歳階級別人口を基にした概算値であり、実際の小・中学生の数とは若干のずれがある。
資料) 総務省「国勢調査」及び上越市資料を用いたコーホート変化率法による推計値をもとに作成

※ 子どもの数の減少傾向が止まり、将来的には総人口や世代間の人口バランスが安定する状態を目標に設定。2020 年以降、その達成に向けて以下の動きが実現した場合を想定して推計。

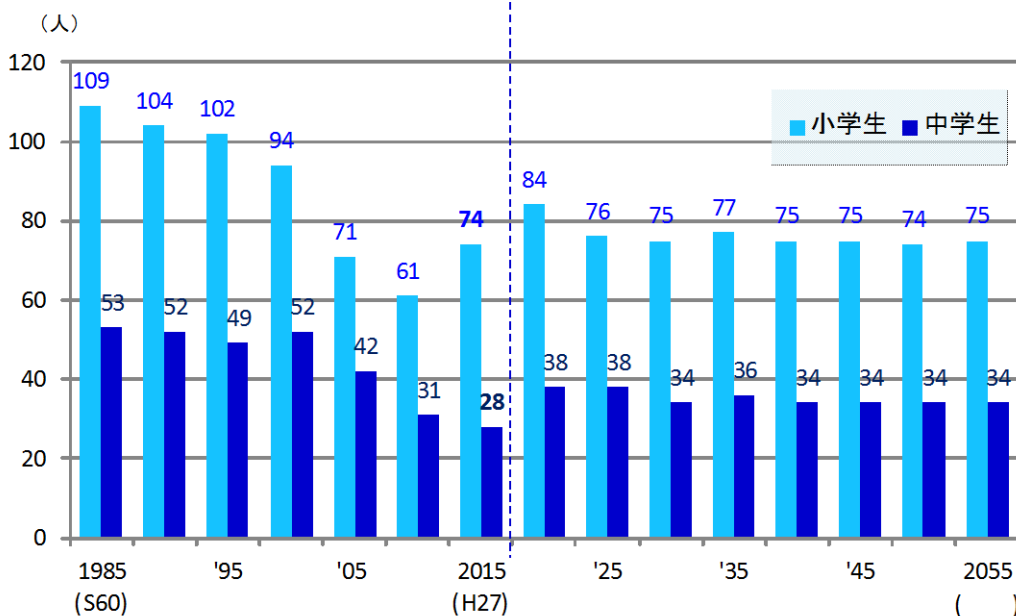
シナリオ 1 に比べて・・・

- 毎年さらに 1 組の〔30 代前半夫婦と 4 歳以下の子ども〕が転入 = 3 (人)
- 毎年さらに 1 組の〔20 代前半夫婦〕が転入 = 2 (人)

● 年齢 3 区分別 (1985 実績 - 2055 推計)



● 小・中学生人口 ※ (1985 実績 - 2055 推計)



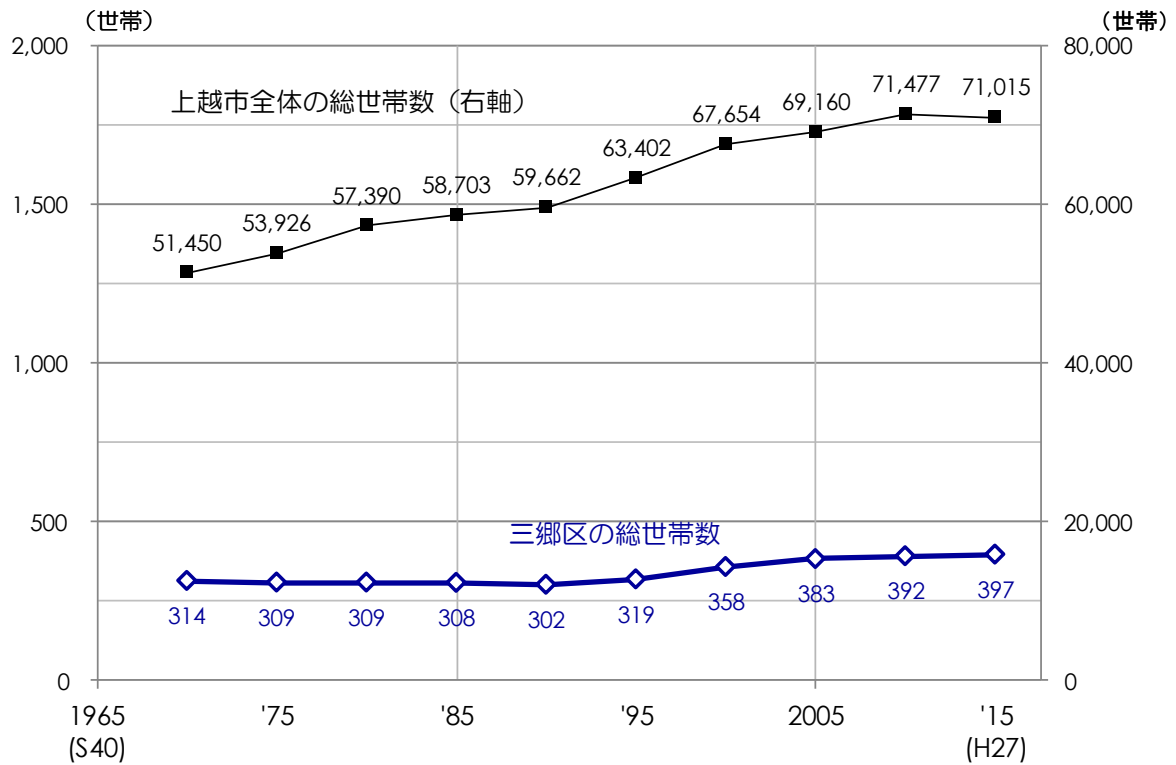
備考) ※は 5 歳階級別人口を基にした概算値であり、実際の小・中学生の数とは若干のずれがある。
資料) 総務省「国勢調査」及び上越市資料を用いたコーホート変化率法による推計値をもとに作成

4 世帯数

● 区の世帯数はどのように変化してきたか？ 上越市全体と比較してどうか？

図 11 総世帯数の推移

三郷区・上越市 1970~2015

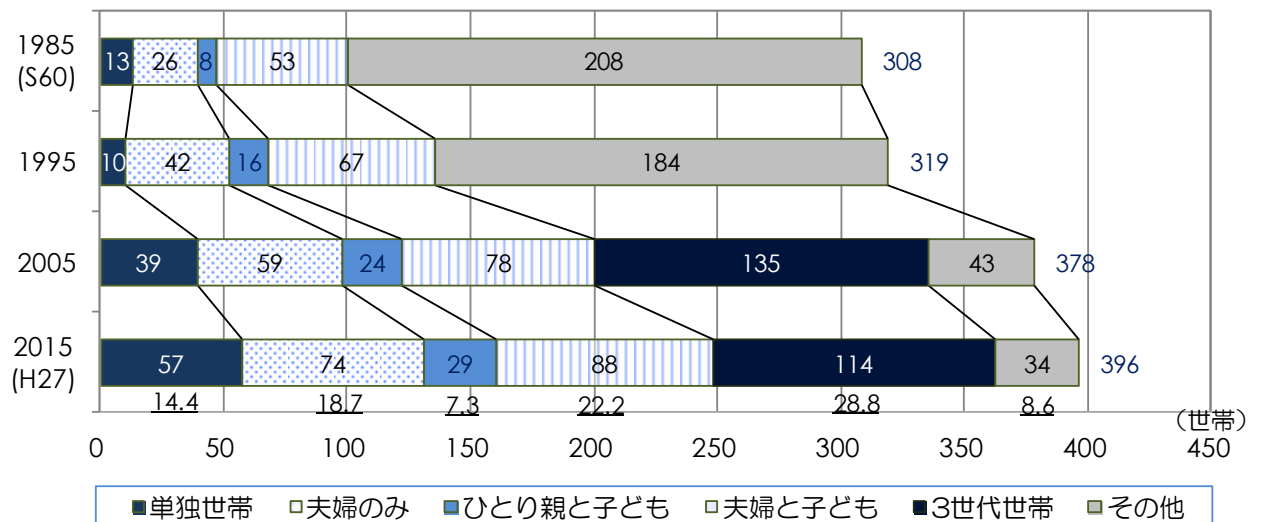


資料) 総務省「国勢調査」及び上越市資料をもとに作成

● 区の世帯構成はどのように変化してきたか？ 他の区と比較してどうか？

図 12 世帯構成の推移

三郷区 1985~2015



備考) 施設等の世帯(寮・病院・社会福祉施設など)を除く「一般世帯数」であり、合計値は「総世帯数」よりも若干少ない。1985, 1995年の3世代世帯は、「その他」に含まれる。

集計方法の制約上、数世帯程度の誤差が生じる場合もある(小地域集計の秘匿計算によるもの)。

2015年の棒グラフ下の数値は、全体に占める割合(%)を示す。

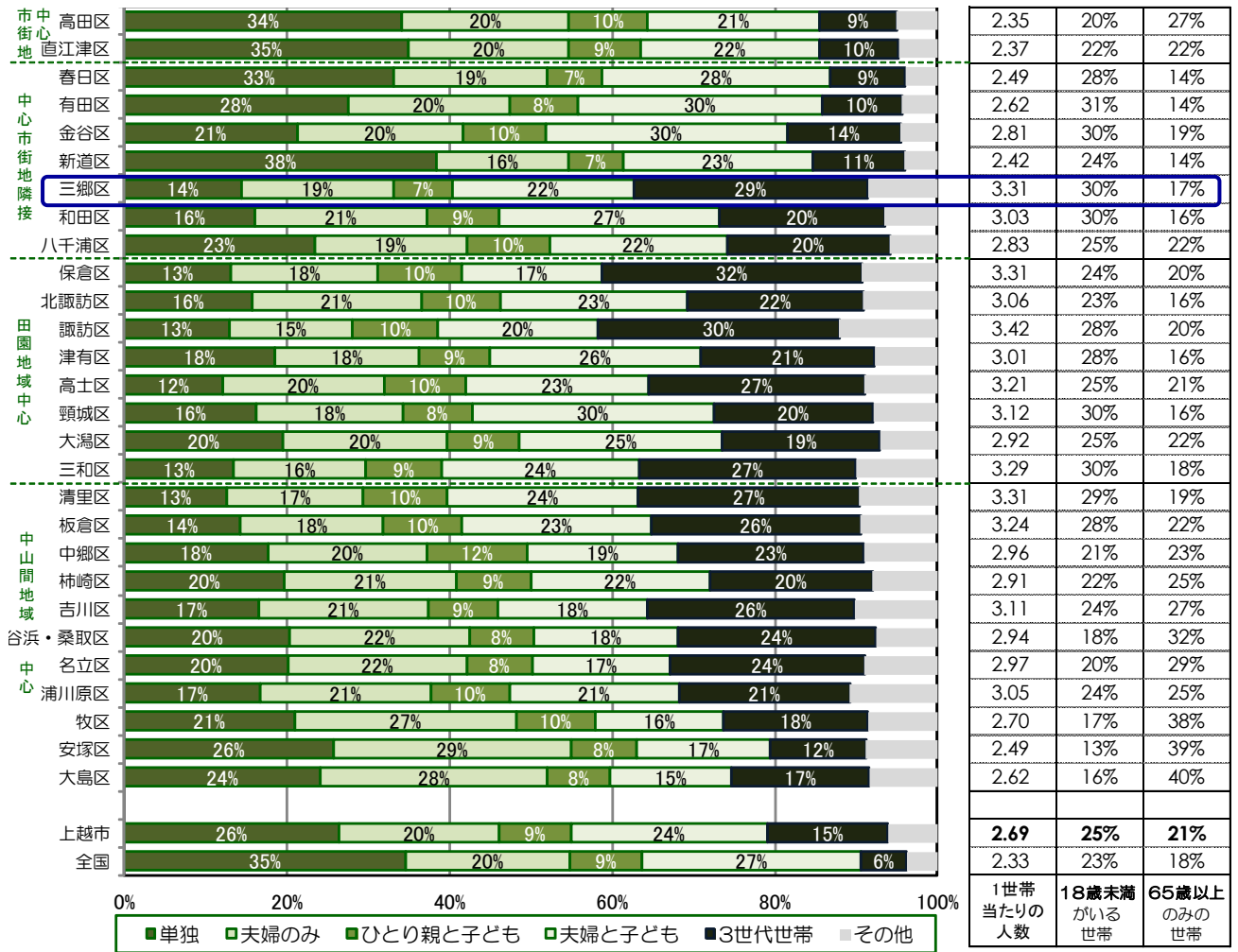
資料) 総務省「国勢調査」及び上越市資料をもとに作成

図 13

世帯構成の比較

市内 28 区

2015



備考) 施設等の世帯 (寮・病院・社会福祉施設など) を除く「一般世帯数」の内訳を示した。

資料) 総務省「平成 27 年国勢調査」をもとに作成

三郷区における自主的審議事項

審議事項	㉑地域の課題	㉒課題解決に向けた取組（当初案）	㉓主な成果	㉔今後の方向性・進め方（案）
三郷区の人口減少について （審議開始日：平成30年2月21日）	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人口が減少しており、このままだと地域の活力低下が想定される。 地域では、人口減少等により空き家が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 手作りマップの作成などによる地域の魅力発信。 空き家の有効活用の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口、世帯数の統計データに関する研修（講師：上越市創造行政研究所研究員） 三郷区に転入された方との座談会 高土区地域協議会との意見交換会 空き地、空き家と地域の魅力を調査 地域の魅力づくりと情報発信に関する研修（講師：上越教育大学 吉田昌幸准教授） <p>→11月5日（火）を予定</p>	<p>【案】 11月5日の委員研修の結果をもとに、魅力マップの内容や活用方法について協議する。 →<u>現委員の任期中は協議を継続する。</u></p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 魅力マップ作りについては、現在進めているため一部達成ではないか。 空き家、空き地の調査は実施したが、個人情報の問題があるため、地域協議会でこれ以上進めるのは難しいのではないか。 統計データを学ぶ研修や転入者との座談会など、我々ができることを着実にやってきたと思うため、達成に近いのではないか。
三郷区における高齢者支援の取組について （審議開始日：平成28年10月21日）	市が実施している「地域支え合い事業」について、市は地域の住民組織へ委託して実施する方針であるが、三郷区には受託可能な住民組織がない。	<ul style="list-style-type: none"> 地域協議会での課題の洗い出し。 町内会長協議会との意見交換。 必要に応じて地域住民や関係者との意見交換。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域支え合い事業」について市担当課から説明 「地域支え合い事業」を先行して受託している諏訪区の事例を学ぶ研修（講師：諏訪の里づくり協議会 内山松男氏、石崎 久義氏） 町内会長協議会との意見交換 三郷まちづくり振興会設置検討委員会の立ち上げ <p>→平成30年3月に「三郷まちづくり振興会」設立、4月「地域支え合い事業」の受託開始</p>	<p>【案】 「三郷まちづくり振興会」が設立し、「地域支え合い事業」を受託していることから、既に達成されている。 →<u>協議を終了する。</u></p>
	三郷区は高齢化が進んでいるため、「地域支え合い事業」だけでは高齢者の支援が不十分になることが想定される。	<ul style="list-style-type: none"> 地域に必要な高齢者支援の取組について検討。 検討した取組案について、実施可能な団体に提案。 	<ul style="list-style-type: none"> すこやかサロン三郷（地域支え合い事業）の視察 委員による協議（「地域支え合い事業」以外に必要な取組について） <p>→<u>協議結果は別紙のとおり</u></p>	<p>【案】 当初掲げた取組については、一部は三郷まちづくり振興会などの地域団体等で実施されている。他のものについては、地域協議会で検討できるものではない。よって、今後の地域の動向を見守る。 →<u>協議を終了する。</u></p>

高齢者支援の取組について 意見一覧

テーマ	㉔出された意見	㉕期待される効果	㉖課題	㉗解決方法	㉘今後の方向性・進め方
1. イベントを実施する	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム大会 ・竹の子汁の集い、芋煮会 ・カラオケ（歌の教室） ・お手玉など昔の遊びを子どもたちに伝えていく ・輪投げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代を超えた交流 ・お手玉遊びと竹の子汁の会など、イベントを組み合わせると実施すれば、多くの参加が見込める ・皆で楽しめる ・人との関わりを持つことで元気が出る ・社会的交流により脳が活性化 ・テレビゲームで脳を活性化 ・最初はできなくても、続けていけば来なくなる ・人と関わるだけでも認知症予防になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な機材の準備と費用 ・人材の確保 ・会場の確保 ・長時間になると参加者が集まらない ・天候により出席者数が左右される ・少数の参加者で継続できるか ・町内を回るだけではなく、メインのイベントが必要 ・対象となる人が何人いるか調査が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・カラオケの機材をレンタルする ・町内の集会所で開催するなど、参加しやすい環境を整備する ・地域活動支援事業を活用する 	<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三郷まちづくり振興会で、今年度の地域活動支援事業でプロジェクター等を整備したため、今後活動が活発になるのではないか。 ・各町内においても、できる範囲で高齢者支援の活動をしている。
2. 畑や料理などを楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の近くで畑を借りる ・野菜作りの指導 ・料理で生きがいづくり（地産料理の販売、男の料理教室） ・高齢者の畑作業の手伝い ・子どもたちとの交流 ・野菜の品評会（イベントと絡める） ・野菜を販売する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と親しむことで活力のもとになる ・何か作ったり食べたりすることを介して会話が弾む ・人との関わりを持つことで元気が出る ・体を動かすことに効果がある ・老化現象を緩やかにする ・生きがいになり、意見交換の場にもなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場まで遠い方、行けない方の移動手段 ・土地の確保（借地料） ・道具の手入れ ・人集め ・スタッフの確保 ・少数の参加者で継続できるか ・対象となる人が何人いるか調査が必要 		<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三郷区では無理な取組ではないか。 ・ENJOY35での料理作りや小学校での畑・稲作では、高齢者の方から教えてもらっている。それを継続していけば、いろいろな発展がある。
3. サービスを提供する	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物支援 ・運転代行 ・三郷全体を4つに分け、1年交代で支援を担当する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭の負担が軽減される 	<ul style="list-style-type: none"> ・費用（ボランティアか、利用者負担か） ・対象となる人が何人いるか調査が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・働いている世代の意見聴取 	<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスの提供には車が必要だが整備されていないため、今後の動向を見守る。
4. 農家の高齢化について	<ul style="list-style-type: none"> ・農業従事者の高齢化により地域の農業をどう守るか 	<ul style="list-style-type: none"> ・三郷の地域のつながりは協力して農作業をすることでできていたため、地域のつながりを守ることにつながる ・農業で生活してきた人たちが今の三郷ができており、三郷の特徴である 	<ul style="list-style-type: none"> ・三郷が今後も農村地帯として生き残っているのか ・高齢化と担い手不足 ・担い手不足から、いずれ法人化される ・農地の売却先がいろいろ分かると地域のつながりがなくなる ・対象となる人が何人いるか調査が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模化、法人・公社化 	<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大規模化、法人・公社化」は現在進められている。
5. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・運転免許を返納した人を車に乗せるサポート 		<ul style="list-style-type: none"> ・対象となる人が何人いるか調査が必要 		<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協議会で検討するには大きすぎる問題である。

※「すこやかサロン」に関する意見は除く